

奉獻レポート

まちの奉獻団は全77団、
お白石奉獻準備、着々と。

第2回御白石奉獻団連合会
を開催しました

本番を想定した真夏の
シミュレーションと講習会

平成24年11月30日に「平成24年度第2回御白石奉獻団連合会」が開催されました。この連合会では、伊勢市内全団代表者が揃い、来年のお白石持本番に向けて、全体の申し合わせ事項、奉曳や奉獻にあたっての諸注意などを盛り込んだ奉獻要項の内容を協議しています。



全団が揃うと伊勢商工会議所大ホールもいっぱい。

一年前にあたる24年夏（8月5日）宮、9月2日外宮）には、本番と同じ時季に全団代表者が参加して、奉獻コースを実際に歩きながら確認するシミュレーション（実地演習）も実施しました。近年平均気温が高くなっていることもあり、その暑さを現場で実感。本番では、多い日には一日10団が奉獻する予定になっており、限られた時間にとどまらずに運行するの、危険箇所や難所はないかなどを現場で検討しました。奉獻団によって方針や規模は異なりますが、共通するところは調整をして、できる限り公平なルールづくりをしていきます。

また、子どもや高齢者の参加も多いため、心配される熱中症についての講習会も併せて実施しました。道中の警備や救護は基本的に各団ごとに行うため、危機管理・安全対策は重要課題です。

意見や課題を調整して
奉獻要項を作成

そして11月時点では市内77団ほとんどの奉獻団が既に結成され、20年前の前例をベースに、全団を対象にし



各団のハッピを来てコースの下見。内宮奉獻では、一般観光客の多い、おはらいまちを奉曳する。



神域内で注意事項等を伺う。奉獻する外宮の下見では急な雨にも降られたときはハッピやタスキを必ず。

たアンケートや、シミュレーションの現場で出た意見、課題を反映した奉獻要項が形になってきました。

夏以降それぞれの団で具体的な計画が進んできたとあって、連合会では、質問や意見が熱心に交わされました。20年前とは交通事情や観光客の増加、市民生活の変化など社会情勢の違いもあり、また課題は多い状況ですが、出された要項試案はおおよそ承認され、奉獻本番に向かって二歩前進しました。

いよいよ行事開催当年を迎え、今後さらに内容を詰めて各団、各地域で奉獻計画を練り上げて準備が進められていくこととなります。ご参加を予定されている市民の皆様は各奉獻団の運営にご理解、ご協力いただきますようお願いいたします。なお、出発時間、奉曳に伴う交通規制等は、順次ご案内します。

【御遷宮対策委員会 関連事業 情報】

平成25年「さっぽろ雪まつり」4丁目会場に
伊勢をモチーフにした大雪像が
出展されます。

平成25年2月5日から2月11日の間に開催される「さっぽろ雪まつり」で「伊勢」をイメージした大雪像が制作されます。会場近くで宮澤正明写真展「伊勢神話への旅」も同時開催され、全国から200万人の人が訪れるという大規模な雪の祭典会場に、伊勢へ思いを馳せることができる空間がうまれます。伊勢への観光案内や伊勢志摩地域の物産販売ブースも設置し、伊勢志摩を全国にPRするべく企画を準備しています。



大雪像イメージスケッチ

北海道まで足を運ぶのは難しいかもしれませんが、会場の中心、注目度の高い4丁目会場ということもあり、会期中は全国放送のテレビ情報番組等でご覧になる機会があるかと思えます。今年の「さっぽろ雪まつり」、ぜひ、ご注目ください。

「伊勢神話への旅」
パンフレットができました。



遷宮だけに留まらず、「神話」というキーワードで恒久的な伊勢神宮の魅力を伝えるパンフレット（A4/16ページ）を制作、発行しました。主に県外のPR活動等で配布する予定です。

書家・紫舟さんが御遷宮を記念して神宮へ奉納。
その文字を使用した「祝御遷宮」幟（のぼり）が全国に！



奉納された作品
（写真：神宮司庁文化部 石垣氏と紫舟氏）

書家・紫舟さんの作品「祝御遷宮」が神宮に奉納されました。ご遷宮へのお祝いの気持ちをまっすぐに表現したという書は、正統ながら今の時代にあった新しさも感じました。伊勢とのご縁を受けて何度も来勢し、五百枚を超える創作を経て完成した作品だということです。紫舟さんのご好意により、この「祝御遷宮」の文字は幟となって、今年2月以降、神社庁を通して全国の神社に配布される予定です。

※紫舟（ししゅう）氏：書家。NHK大河ドラマ『龍馬伝』の題字など、幅広いジャンルで注目される多くの作品を発表している。

「伊勢のお白石持行事」ホームページ
<http://www.isesengu.jp>

スマートフォン伊勢神宮無料アプリ配信中

関係行事の日程や、最新情報、おしらせなどはインターネットでもご覧いただけます。

全国からお迎えする特別神領民奉獻にご理解、ご協力ください。
特別神領民のもてなしチームに参加しませんか？

日本全国の神社の総氏神様でもある神宮を日頃より崇敬され、伊勢に幾度となく足をお運びいただいている神社関係者等全国の方々に、地元神領民とともに「特別神領民」奉獻。今回は約7万人の特別神領民をお迎えすることになっています。



お木曳時、外宮への奉曳の様子

全国から参加された方々に「伊勢に来てお白石持行事に参加して良かった、また来たい」と思っていたただける、伊勢らしいおもてなし、ご案内ができるように特別神領民の受入計画も現在進行中です。

各奉獻団には奉曳の応援、ご協力をお願いしております。また特別神領民接遇部として、木遣り隊、もてなし広場の接待、介護・介助の経験者など、広くボランティアスタッフが随時募集しています。ご興味のある方は事務局まで、お気軽にご連絡ください。

「お白石持行事」におけます特別神領民の奉獻につきまして、「お白石持行事」の伝統や安全性を考慮して「**一般募集は致しません**」のでご了承ください。

お白石拾いへの協力ありがとうございます



前号「お白石拾い」の記事をご覧になり、ご夫婦で宮川の河原に出向き、お白石を拾って、事務局まで届けていただいた伊勢市中須町の山岡様ほか、個人有志、近隣地域のグループ等、多くの方にお白石拾集の協力をいただいています。ありがとうございます。お持ちいただいた石の一部は樽に入れて商工会議所の一階に展示中です。このお白石は特別神領民に奉獻していただく予定です。引き続き取扱は続けておりますので、ご協力よろしくお願いたします。

第62回式年遷宮
ご造営も大詰め

平成25年に入ると、新宮（にいみや）のご造営はいよいよ完成に近づいていきます。新御敷地は全体が白い覆い屋根に包まれています。そうして風雨から新殿を守り、参道から見ることができませんが、中では日々宮繕部の皆さんによるご造営作業が進められています。工の技術伝承のために、ご遷宮に携わるのが3回目という熟練の方とともに多くの若い技師が携わっています。



萱葺き作業の様子（平成24年11月）

9月、お白石持行事を終えたのち、神宮では多くのご遷宮諸行事が続きます。そして10月初旬に御神体が新宮へお遷りになる祭儀「遷御の儀」が行われ、その翌日以降、一般の方も新宮への参拝ができます。また、本年の内宮、外宮のご遷宮を終えたあと、来年以降、順に14の別宮でも遷宮が行われます。